

令和6年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

資料3-4

（センターの名称：地域包括支援センター ゆず ）

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
58個	0個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	独自事業(ゆずクラブ・脳血管当事者の会・ケアマネサロン)は計画通りに実施した。継続して地区まちぢから協議会の委員としての定例会や地区ボラセン・地区社協の会議へ出席し、一定の協力体制を推進した。地域ケア会議は年2回開催。地域活動充実事業の一環として、地区社協主催の街歩きを元に地域課題の抽出を行い、閉じこもり対策、情報収集周知、共助力の低下が課題として把握が行えた事で、ネットワーク会議で意見を深め、次年度への継続取組みの土台が出来た。地区まちぢから協議会にて、茅ヶ崎地区認知症高齢者数推計の報告を行い、それを元に認知症支援の実働部隊となる、チームオレンジ活動を報告した。地域サロンでの認知症勉強会や健康体操の実施、ゆずの年間活動の周知を行う等、地域団体・地域住民とのネットワーク構築を推進した。イオンスタイルにて、イオンスタイル・(株)ニッショウと共催で地域住民向け健康イベントの開催を行い、イオンが求めている地域貢献のニーズが合致した為、今後も共同企画を行っていく事となった。
---------------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和7年5月20日 ・地域ケア会議について、薬局から出た地域課題に対し、主体的に民間企業に働きかけ、商業施設を活用した健康イベントの開催につなげるなど、次年度の活動も視野に入れた取組ができていた。 ・ケアマネジャーのニーズに基づいて、空き家問題・相続や遺言について、行政書士を講師に招き、民生委員児童委員に声をかけて、ケアマネジャーと地域の支援者が効果的に意見交換できる工夫を行っていた。 ・事業間連携については、地域支え合い推進員とネットワーク会議の事前打合せを継続して行い、地域支え合い推進員と連携して第2層協議体の活性化を図っていた。
---	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
----------------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和6年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターつむぎ)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
57個	1個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	消防訓練では、自治会や近隣の医療施設から「避難経路が分からない」等の声を頂いたことから、テナントで入っているビルの管理会社と連携し初の津波一時避難訓練を企画・開催。約20人が参加し、自治会や地域住民と共有の場を設けた。地域ケア会議は孤立死をテーマに開催。地域の気づきの目(セーフティネット)として考えられるものや、個人または自治会単位で始められること、将来性を持って取り組んでいくべき事柄について参加者26名と意見交換を行った。また地域課題として一部地域で買物難民となっている方達に対して、移動販売を検討し社会資源の一つとして活用できるよう関係者と協力し実施に向けて検討。認知症地域支援推進員としては、家族介護教室で「認知症の症状と受診のタイミング」をテーマに企画・実施し、家族介護者からの様々な意見を共有する場となった。また、幅広い世代に向けて認知症に関する正しい知識を普及啓発していくうえで講座の案内等やプレゼンを企画。
------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和7年5月15日 ・適正な職員配置について、機能強化分の職員が欠員となっていた期間があったが、切れ目なく業務を行えるよう業務の優先順位を考え、地域住民に影響がないよう対応していた。 ・地域ケア会議については、孤立化をテーマに実施し、自立度が高いほど防犯意識が薄いなど課題を共有し、今後の取組につながる有益な意見交換を行っていた。 ・認知症施策については、新たに若い世代への普及啓発を目指し、学校関係者に対して理解が深まるよう働きかけることにより、翌年度の取組へつなげていた。 ・ケアマネジャーのニーズに基づき、病院の相談員との意見交換会を実施し、主治医との連携の取り方や経済的課題がある方への対応など、医療介護の連携体制の強化を図っていた。
---------------------------------	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和6年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターれんげ)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
57個	1個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	6年度は認知症関連事業に積極的な取り組みを行った。チームオレンジメンバーに対して地域で生活する認知症の当事者や家族の課題について話す機会を設け、積極的な活動につなげられるよう包括主催の「認知症サポーター養成講座」に参加してもらえた。また、小学生児童に認知症を含めた高齢者の生活課題について知ってもらい、「共に生きる」ために何が出来るか、などを考えてもらう機会を持つことができた。地域住民より、こんな大事なことはもっと多くの人に対して知ってもらったほうがいい、という感想をもらっている。介護予防や介護保険制度の周知については地区社協で勉強会を開催し、制度全般について理解を深めてもらうことができた。権利擁護については、地域の金融機関に講話を依頼し、地域の目線での消費者被害防止に向けた取り組みを住民に伝えた。地域ケア会議は「空き家対策」「災害への備え」について開催し専門家を交えての話し合いの場を持つことができた。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和7年5月14日 ・職員の急な退職に伴い、一時的に欠員が生じたが、他の職員が業務を引き継ぎ、切れ目なく業務を行う体制は整えられていた。今後は欠員が生じないように運営をする必要がある。 ・小学生向けの認知症サポーター養成講座の開催やチームオレンジメンバーとの連携など、認知症に関する活動に力を入れて取り組んでいた。 ・れんげひろばやれんげクラブなど、独自の事業を積極的に展開し、地域への周知やアウトリーチ活動に取り組んでいた。 ・地域のニーズを把握して、防災に関する知識を深めるために地域ケア会議を開催、専門職派遣事業を活用して、災害時の配慮のポイントや支援者の動きなど、具体例に沿った学びが出来る場の提供をしていた。
---------------------------------	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和6年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 海岸地区地域包括支援センターあい)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
57個	1個	9個	1個

地域包括 支援センター 自己評価	今年度は、健康相談や介護・認知症予防に力を入れて、海岸地区の住民に対して幅広く相談を受ける事の周知を行い、気軽に相談できるよう月2回のサロン(延べ127名参加)や月1回の体操教室(延べ246名参加)の開催、地域の行事や会議等顔の見える機会を積極的に活用した。 地域ケア会議では、地域の課題として認知症になっても安心して暮らせる地域を目指し、認知症の人に優しい暮らしのアイデアを考えるをテーマに取り組み、チームオレンジの活動を周知、地域の関係機関の理解を得て、協力体制を築き、来年度地域活動として社会資源の開発につなげていく取り組みを行った。 人員については、欠員を補充でき業務を継続できるようしっかりと引き継ぎを行い体制を整えることが出来た。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和7年5月16日 ・3職種が配置されていない期間があったが、他職員が業務の引継ぎを行うことで切れ目なく業務を行なえるよう体制を整えていた。 ・ケース対応等の積み重ねにより、民生委員や薬剤師などそれぞれの立場からの認知症の方への対応が地域の課題であることを把握し対応について検討を行い、地域ケア会議にてチームオレンジの紹介を行うと共に、それぞれの立場から「認知症と思われる人にどのように声をかけるか」の意見交換を行い、地域での見守り強化に取り組んでいた。 ・ケアマネジャーへのヒアリングの結果、防災に関する取組について課題があることを把握し意見交換の場を設け、ケアマネジャー同士の連携・情報共有の体制が整備できるよう支援した。
---------------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和6年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターさくら)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
57個	1個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	地域に密着した総合相談窓口として、市主催の人材育成研修に加え性的マイノリティ・依存症や引きこもり理解など幅広く研修を受講し、伝達講習を行うことで全職員の対応力向上に努めてきた。 消費者被害に関して「サロンつるみね」での消費者被害講座の開催をはじめ自治会ごとで開催されているサロンでの消費者被害に関するチラシの配布・注意喚起、また社会福祉士部会の動画作成に協力し被害防止に向けた活動を行ってきた。 地域共生社会実現のための取組として各種地域団体の会議に出席し情報共有すると共に市役所の担当課を含め消費者センター、後見支援センターなど適切な専門機関と積極的にネットワーク構築を図ってきた。 地区支援ネットワーク会議での地図作成、地域ケア会議では鶴嶺東地区内の障がいのグループホームと情報交換を行った。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和7年5月14日 ・将来を見据えて人員を確保し、業務継続をするための組織体制を整えている。 ・消費者被害について、警察と連携して民生委員向けの勉強会を開催するなど、被害の防止に取り組んでいた。 ・地区内の障がい者グループホーム等と介護支援専門員の情報共有の場を設け、円滑な連携に繋がるように支援をしていた。 ・地域ケア会議の開催にあたり、地区内の各自治会と連携し、集合住宅における高齢者への支援など、それぞれの地区における課題の解決に取り組んでいた。
---------------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和6年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターみどり)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
57個	1個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	令和6年度に予定した事業は全て開催することができた。まちぢから協議会、民児協 定例会や地区社協ネットワーク会議への参加等連携を図り、初めての試みである サマースペースでの認知症サポーター養成講座の実施等後方支援を行うことが出 来た。地域行事は地区福祉祭りの開催や、高齢者昼食会等多くの行事に参加し、 消費者講座を行った。独自事業としてみどりカフェやフレイル防止のためのポール ウォーキングも継続実施した。認知症サポーター養成講座については地区内専門 学校生、自治会を対象に開催した。広報活動として「みどり通信」の定期的な発行と 配布により包括や独自事業・家族介護者教室の周知と案内に活用した。また、地域 ケア会議を地区ネットワーク会議内で開催したことや、高齢者の活動の場としてみど りファームも継続実施し、認知症当事者やボランティアの参加等今後のチームオレ ンジの土台作りを行うことが出来た。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和7年5月14日 ・まちぢから協議会等の関係機関と連携を図り、サマースペース(こどもの居場所) で認知症サポーター養成講座を開催するなど、新たな取組を行っていた。 ・地域の関係者と連携して、みどりファームの活動を継続し、認知症当事者やボラ ンティアの参加により、今後のチームオレンジの展開に向けた土台作りを行っていた。 ・介護支援専門員のニーズに基づき、身寄りのない高齢者への対応をテーマに民 生委員と意見交換する場を設け、関係機関との連携強化を図っていた。 ・地域ケア会議で精神疾患がある個別事例を検討することにより、誰もが安心して 暮らせる地域づくりに向けて、住民理解の推進を図っていた。
---------------------------------	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果につ
いて、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和6年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターすみれ)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
58個	0個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	重点的な取り組みとして、社会参加が苦手な人でも、誰もが参加できる場を作る事を目的に男の料理教室(4回)や浜見平みんなの映画会(3回)を多機関と協働して開催した。男の料理教室は、徐々に参加者が役割を持って参加するようになっていく。浜見平みんなの映画会は298人が参加した。認知症に関する取り組みとしては、中島中学校の2年生を対象に、夏休みには小学生と保護者を対象に認知症サポーター養成講座を開催した。湘南オレンジdayは2年目を迎え、延べ211人の参加があった。地域ケア会議は6回開催し、個別課題は8050親なき後の支援についてや独居高齢者の安否確認、認知症高齢者の徘徊見守りについて地域住民や警察、UR、民生委員、ケアマネと検討した。職員に関しては4月より保健師が配属され、準ずるものを含まず、3職種を配置する事が出来た。
------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和7年5月15日 ・地域ケア会議における個別事例については、公営住宅の事例を取り上げて、地域特有の課題として解決に向けた検討がされていた。 ・認知症の取組については、小中学生を対象とした認知症サポーター養成講座の実施やチームオレンジの活躍の場である湘南オレンジDayの開催により、新たに若い世代への認知症の理解の推進に努めていた。 ・大学の研究事業に関係機関等と共に連携協力することにより、地区のニーズでもある誰もが参加できる場の設定や外出のきっかけづくりの推進に取り組んでいた。 ・会議室の運用やプライバシーの保護について、市の助言も活かして市民や関係機関がより利用しやすいように環境整備が図られていた。
---------------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和6年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センター くるみ)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
58個	0個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	国34・Q45項目について、R4年度、5年度と取り組みができなかったが、今年度はケアマネジャーのアンケート結果に基づいて、司法書士とケアマネジャーを交えて「意思決定支援を踏まえた後見事務のガイドライン」について意見交換及び勉強会を開催した。本人の意思の汲み取り方法の工夫やチームメンバーの選出、本人が意思を表出しやすい環境設定の重要性を学ぶ事ができた。 地区内のカフェ店舗を活用して、くるみで作成した社会資源マップをケアマネジャーへ情報提供するなど、新しい取り組みも実践した。 「行事への参加」を目的とした送迎支援の取り組みは継続しており、松林地区の新たな社会資源として地域に浸透してきている。 認知症カフェの開催については、全4回開催し、いずれもステップアップ講座修了者の協力を得ることができ、引き続きチームオレンジの体制整備に向け、検討を行っていく。
------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和7年5月12日 ・R5年度まで開催できていなかった多様な関係機関等との意見交換の場の設定について、介護支援専門員のアンケート結果に基づき、「意思決定支援を踏まえた後見事務のガイドライン」をテーマに意見交換及び勉強会を開催することが出来ていた。 ・移動支援について、松林地区における取組を継続するとともに、他地区への展開に向けた情報提供等を行うなど、市全体の取組への協力を行っていた。 ・地区内の介護サービス事業所等と連携して、認知症カフェを開催するなど、地域活動とのマッチングを行っていた。 ・社会資源マップの作成など、新たな事業の実践を積極的に行い、チームオレンジの体制整備や介護支援専門員への支援に取り組んでいた。
---------------------------------	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和6年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターあかね)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
55個	3個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	・認知症サポーター養成講座のステップアップ講座修了者の意見交換を開催したことに端を発し、甘沼地区と鶴が台地区での認知症の相談会が開催されるようになった。 ・自主事業の講座を松風台自治会館で、家族介護教室をみずきコミュニティーハウスで開催するなど、活動場所が偏らないよう改善に努めた。 ・香川公民館との共催で介護予防講座を開催した。今後の継続も検討しており、協力関係を構築していく。 ・在宅医療・介護連携推進事業における相談窓口に対しては相談案件がなかった。
------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和7年5月20日 ・認知症サポーター養成講座 ステップアップ講座修了者への働きかけにより、「あんしんのオレンジカフェ」や「何でも相談室チャーム」などの認知症の相談会の構築支援を行った。認知症サポーターの活躍の場の創出や認知症の当事者及び家族等からの相談体制の構築を行った。 ・これまでの自主事業で、鶴が台団地周辺が中心となっていた取組みを、松風台自治会館やみずきコミュニティーハウスにて開催するようにし、活動の場を広げる取組みをしていた。 ・苦情への対応は適切にできていたが、記録が適切にされていなかったため改善を図る必要がある。
---------------------------------	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和6年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センター 青空)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
55個	3個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	昨年度末の職員の退職に伴い、令和6年度は職員体制に変更が生じたが、引継ぎが適正に行われたことから、包括的支援事業等の委託事業、及び従来行ってきた地域活動を計画的に実施することができた。特に地区社協主催の「ふれあいサロン」への開催協力や、地区ボランティアセンターの定例会議に通年で参加したことで、地域住民同士による助け合いの活動を直接的・間接的に支援できた。 消費者被害防止の周知活動については、「だまされない新聞」を毎月発行した他、小和田地区コミセンで寸劇を実演するなど、住民に興味を持たれるよう工夫した。チームオレンジ主催の認知症カフェ「ふらっと茶屋」は毎月開催しただけでなく、家族の会「オレンジの集い」の創設、新たな支援者の発掘や参加者の勧誘など、活動の拡大と内容の充実にも協力した。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和7年5月20日 ・地域支え合い推進員と連携し、地域の課題解決に向けて、地域ケア会議と地区支援ネットワーク会議の場を機能に応じて有効に活用していた。 ・介護予防ケアマネジメント・介護予防支援の委託に際しては、担当者を決めて管理をしていたが、台帳への記録及び進行管理については不十分な点があったため、今後は改善に取り組む必要がある。 ・消費者被害の防止について、新聞の発行や寸劇の実演により、高齢者の意識啓発に積極的に取り組んでいた。 ・認知症カフェの定期開催に加え、新たに家族の会を創設するなど、チームオレンジの活動の充実、拡大に向けた支援を行っていた。
---------------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和6年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターさざなみ)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
57個	1個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	今年度重点的な取組方針についての評価を中心に記載する。 ①認知症になっても暮らしやすい地域づくりの推進として、認知症サポーター講座を小学生、ボランティアセンタースタッフに実施した。またチームオレンジや関係機関の方の協力を得て、地域住民や介護者家族が交流できる場を定期的に開催することができた。 ②介護予防の推進として、「さざなみ体操」を週1回実施した。地域の介護事業所や整骨院、趣味サークルに協力いただきゲスト講師として参加してもらうことができたことは、介護予防に関するサービスや趣味活動を知るきっかけづくりにもなったのではないかと考えている。 ③関係機関との連携推進として、まちぢから協議会定例会、地区ネットワーク会議、コミセンまつりや福祉まつりへの参加、公民館との共催講座を開催した。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和7年5月14日 ・週1回実施している「さざなみ体操」で、地域の趣味サークル等に参加している元気な高齢者などをゲストとして招き、趣味活動へのきっかけづくりを行うなど、介護予防の推進に取り組んでいた。 ・ケアマネジメント支援として、隣区のセンターと協力し、介護支援専門員のニーズに即して、医療機関との連携を深めるための勉強会等を開催していた。 ・商店街やコンビニ等商業施設、地区内の小学校・中学校等を訪問し、認知症の方に関する地域の実情について意見交換を行うなど、認知症普及啓発活動に取り組んでいた。
---------------------------------	---



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和6年度 地域包括支援センター事業運営評価シート

(センターの名称: 地域包括支援センターあさひ)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
57個	1個	9個	1個

地域包括 支援センター 自己評価	・地域ケア会議について、個別事例では「地域で孤立している方」への支援を出発点に同様のケースを含めた対応方法を検討した。(※令和7年度も引き続き取り上げる)地域課題では「防災」をテーマに地域住民と介護事業者を招聘し、「顔の見える関係づくり」と避難所運営を含む協力関係構築に成果があった。 ・あさひカフェ(認知症カフェ)は月1回開催を継続でき、新たなサポーター及び資質向上を図ることができた。「チームオレンジ」構築に向けて若い世代、関心の薄い層へ活動を広げていく。 - 生活支援体制整備事業では、コーディネーターネットワーク会議等を通じて、市社協・地域福祉課等と課題共有を行うなどして連携をしている。「はまかんまつり」での協力はその実践と考えている。
------------------------	---



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和7年5月12日 ・急な職員の退職があり、十分な引継ぎを行うことができていない状況が生じていた。基幹型職員による業務継続のための後方支援等もあり、相談等への対応をすることはできていたが、今後同様の状況が生じないように体制を整えていく必要がある。 ・地域ケア会議を活用して、介護事業所や地域住民の防災意識を高めるための取組が継続されていた。 ・ケアマネジメント支援として、隣区のセンターと協力し、介護支援専門員のニーズに即して、医療機関との連携を深めるための勉強会等を開催していた。 ・市社協・地域福祉課等と連携して、イベント等の企画運営を行うなど、生活支援体制整備事業の中で担う役割を意識した取組ができていた。
---------------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。

令和6年度
地域包括支援センター事業運営評価シート
(センターの名称: 地域包括支援センターわかば)

国指標評価		茅ヶ崎市指標評価	
○	×	○	×
58個	0個	10個	0個

地域包括 支援センター 自己評価	・障がい者施設の多い地域の強みを生かして、包括あかねと合同で「障がい&高齢、垣根を超えた連携づくり」のテーマでケアマネジャー向け勉強会を開催できた。 ・チームオレンジ活動は、名称とリーダーが決まり、チームオレンジ主催での家族交流会を2回開催できました。来年度に向けて、メンバーからの発案で年間計画を立てることができ、地区社協のサロンとして登録申請をした。 ・個別課題解決機能の地域ケア会議は3回開催し、チームオレンジメンバーに参加して頂いた会議では、ネットワーク構築、地域課題発見、地域づくり・資源開発機能も網羅できました。その他の2回は、ケアマネジメントの状況に応じて、タイムリーに開催でき、課題解決に繋がった。 ・「わかば通信」を2回発行し、包括支援センターの活動、予防事業、チームオレンジの周知や警察とも連携して消費者被害防止に努めた。
------------------------	--



基幹型包括 ヒアリングの ポイント及び 結果	【ヒアリング実施日】令和7年5月16日 ・災害時の対応については、停電時を想定して実践的な訓練を行い、課題を整理して職員間で共通認識を持つことができていた。 ・ケアマネジャーのニーズに基づき、障がい分野に関する課題に対して、障がい者施設の職員との意見交換の場を設け、障がいと高齢分野の連携の推進していた。 ・地域ケア会議については、チームオレンジのメンバーを参加者に加えるなど、地域課題の解決に向けて、今後のネットワーク構築や地域づくりにつながるよう工夫して実施していた。 ・地域住民に対して、出前講座の際に介護保険でできることとできないことやケアマネジャーの本来業務の範囲を超えた要望への対応について、基本的な考え方を説明し、住民の理解を図っていた。
---------------------------------	--



地域包括支援センターの自己評価及び基幹型包括によるヒアリングの結果について、運営協議会に報告を行う。



茅ヶ崎市 総合評価	
--------------	--

* 市としての総合評価は、運営協議会の意見等を踏まえ、決定する。